

317) この丘に来て

この丘に来て大好きだった	みどりちゃんちへ届くようにと
紙飛行機を飛ばしていたのは	僕が12歳 ^{じゅうに} の夏の日だった
餓鬼大 ^{がきたいしょう} 将の少年時代	その娘 ^こ の前では気を引くために
パフォーマンスを時々やって	よく先生 ^{しか} に叱られていた
古い記憶をたどるよに	長い旅路 ^{さかのぼ} を遡る
皆それぞれに時は逝 ^ゆ き	皆平凡に生きている
何年ぶりかでこの丘に来て	あの日の夢を追いかけてみる
うまくゆかない恋に疲れた	心の隙間 ^{すきまうづ} 埋めるために
今の彼女は2年が過ぎて	相変わらずの距離がある
それでも僕は彼女が好きで	試練の時に今耐えている
古い記憶をたどるよに	長い旅路を遡る
もうすぐ僕の大好きな	夏の季節がやってくる
僕のハートを独り占めして	彼女は僕に微笑みかける
時々僕は自棄 ^{やけ} を起こして	路傍 ^{かん} の缶 ^{けと} を蹴飛ばしてみる
彼女に惚れた僕のハートは	そんなことでは帰って来ない
僕の焦燥 ^{あせり} がカンカラカンと	大きな音 ^{こだま} で木精するだけ
古い記憶をたどるよに	長い旅路を遡る
むなしい音が静かさを	カンカラカンと引き裂いた